**令和5年度　GKPプロジェクト報告・ブリーフシート**

※記載例

|  |
| --- |
| プロジェクト名： GKP広報大賞 |

**Ⅰ プロジェクト全体像**

（１）目的（なにを達成するか）

|  |
| --- |
| 1. 下水道広報の最前線に光を当て、優れた取組を表彰する。 2. 全国の下水道広報のアイデアやノウハウを集約（事例集）し、様々な団体の広報担当者がその情報を共有・活用して下水道広報を活性化していくためのプラットフォームを構築する。 |

（２）ターゲット

|  |
| --- |
| 下水道業界の内外を問わず、下水道の価値や魅力などを広めるために全国で下水道広報を行っている人や組織 |

（３）実施期間

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 開始年度  平成25年 | ～ | 終了予定年度  終了予定なし（ほか記載例：令和10年など） |

（４）現状と将来像（成果物）

|  |
| --- |
| 現状（なぜこのプロジェクトが必要か）   1. 全国で様々な下水道広報が展開されているが、その中で優れた取組を表彰することにより、下水道広報に取り組むインセンティブを高めることが求められている。 2. 全国で展開されている下水道広報のノウハウの共有が図られていない。（優れた取組が埋もれている）中小団体は特に人手・ノウハウ・資金不足等の問題が深刻で、効果的な広報を安価に効率よく実施する手段を欲している。 |

|  |
| --- |
| 将来像（具体的な成果物、定性的・定量的指数）  GKP広報大賞を、下水道関係者であれば誰もが知る存在に育て上げ、毎年、まずは20件、将来的に100件レベルの応募が集まるようにする。また本賞を通じ、下水道事業に関わるすべての人が広報担当者としての意識を持つ土壌をつくる。  受賞した取組が積極的に全国展開されることにより、下水道の認知、理解を拡げる。  結果、市民にとって下水道がより身近で愛される存在になる。 |

**Ⅱ 令和5年度達成状況**

（１）当該年度の目標

|  |
| --- |
| 1. 応募要項や表彰内容を見直すことにより、より応募しやすく、よりきめ細かく、実態にマッチした表彰を行う 2. 20件のエントリー 3. 10回開催を記念したレコード表彰の実施（努力されている団体に光を当てる） 4. 受賞者セミナーを実施し、全国から100名の広報大賞者に参加いただく 5. メディア露出を増やす（これまで専門紙２紙→5紙） |

（２）活動時期と内容

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 日時 | 件名 | 活動内容 |
| R5.6.17  R5.7.26  R5.8.27  R5.11.9  R6.12.27  R6.3 | GKP広報大賞を良くするための懇談会  第1回Fika  第2回Fika  募集開始  審査委員会  受賞者セミナー | 問題点の整理、今後の方針などを議論  表彰制度等の見直しに向けたざっくばらんな意見交換  エントリーを募集（１か月間）  審査委員会の開催  受賞者によるセミナー開催 |

（３）予算額

|  |  |
| --- | --- |
| （GKP予算）  ￥230,000  ＜内訳＞  資料作成・郵送　￥20,000  賞状印刷・郵送　￥40,000  盾制作・郵送　　￥70,000  審査委員旅費　　￥50,000  反省会補助費　　￥50,000 | （協賛金） |

（４）決算額

|  |  |
| --- | --- |
| （GKP予算）  ￥230,000  ＜内訳＞  資料作成・郵送　￥20,000  賞状印刷・郵送　￥40,000  盾制作・郵送　　￥70,000  審査委員旅費　　￥50,000  反省会補助費　　￥50,000 | （協賛金） |

（５）当該年度の成果

|  |
| --- |
| 1. 各取組の優れた点を様々な角度から表彰できるよう、表彰のテーマを拡げるなど、見直しを実施した。殿堂入り、レコード表彰制度を導入した。 2. エントリー件数　10件 3. 6団体を表彰。 4. 受賞者セミナーに10人参加。オンライン視聴はリアルで50名、アーカイブ160回視聴。 5. 募集段階と結果発表、表彰式において、専門紙5紙（下水道新聞、水道産業新聞、環境新聞、月刊下水道、週刊下水道情報）に採り上げていただいた。募集開始時、下水道新聞には１面で会長のインタビュー付で掲載いただいた。 |

（６）将来像に対する進捗状況（プロジェクト全体像の目標や将来像に対する現状の達成度）

|  |
| --- |
| 1. ノウハウの集積（事例集化）という面では単純に達成度を数値化するのは難しいが、過去10年の実績により、この制度を継続していく土台はできたと考える。 2. 専門紙の一面に公募開始の記事を掲載してもらうなどメディアへの働きかけを行ったが、認知度は依然低く、エントリー数も10件に留まった。 3. エントリー団体とのつながりが徐々に形成され、直接的に反響や要望などの声を聞ける状況になった。 4. 過去の事例が検索しにくく、参照しにくい。 |

（７）課題と改善策

|  |
| --- |
| 1. 認知度が低いので、引き続き丁寧にメディアへの働きかけを行っていく。（今回一面に掲載していただいた下水道新聞の記者等との懇談などを実施し、さらに強化を図っていく） 2. 受賞者セミナーやわいがやトーク等、受賞者の取組やノウハウ等を横展開する機会を作る。 3. 過去の事例が参照し難いので、カテゴリー等で整理し、検索しやすい形でサイトに掲載する。 |

（８）総括

|  |
| --- |
| 応募しやすくなるような制度見直しを一定程度行ったので、運用しながら、必要に応じて更に見直していきたい。また、今年度は受賞者セミナーやわいがやトークの開催等、横展開の機会を作ることができた。  一方で、表彰制度自体の認知度もさることながら、全国の事例集を構築するという目的がまだ理解されていない。その点を、国の広報戦略を踏まえつつGKPが来年度に向けて策定する戦略に落とし込み、GKPメンバーだけでなく過去の応募団体、受賞団体等との連携を深めながら周知していくことが重要である。 |

（９）自己採点

|  |  |
| --- | --- |
| B | 年度の目標を  A：十分達成できた　B；概ね達成できた　C：あまり達成できなかった  D：ほとんど達成できなかった |

【添付資料】以下の資料データを添付してください。

* 活動写真
* 成果を表すデータ、アンケート調査結果など